



↑こちらからどうぞ

人権協シンボルマーク



いろんな人と人とのつながり、  
ふれあいを美浜のMと波で  
イメージしました。

# ふれあい

人権協HPが  
できました!



”優しさ・奥深さ・たくましさ  
大人”  
“の響き”

人権のつどい2021

今回の「人権のつどい2021」は、小室等さん、坂田明さん、林英哲さん、3人のベテラン音楽家によるtrio sessionでした。

小室等さんの何ともいえない味わいのある優しい語り口から始まり、次々と繰り出されるすばらしい演奏と、軽妙で暖かさのある会話に感動しっぱなしでした。

3人の方によるsessionはあまりされてこなかったということでしたが、3人の方の息はぴったり。これも、長年培ってこられた力量と、周りの人たちとのふれあいの中で育ててこられた“大人”の魅力が大きいのではと感じました。それぞれの個性は生かしながら、それでも一体感・協調性は保ちながらのすごい演奏。聴いている人たち誰もが、心揺さぶられる世界に浸り切れたのではないのでしょうか。

もちろん会話の中に、さりげなく人権に関する話題も入れられていましたが、すばらしい音楽の中に入り込み、感動・優しさ・一体感などを味わうことも人間のすばらしさ・協調性・人と人とのふれあいの大切さを考える大きな機会ではないかと思います。とてもすばらしい響きでしたし、その感動は参加された方々の中に、いつまでも忘れられない思い出となっていくでしょう。

12/4 sat.

trio session どの人もその道で長く活動されてきていて本当に素晴らしい演奏でした。個々の音楽に圧倒されるが3人のセッションも本当に調和しており迫力満点。アメリカのジャズ発祥における黒人差別、また岩下志麻さんの河原者差別、芸能に携わる人が直に経験した問題も徐々に解消するのだろうか…。差別に対して、国内も国外でも声をあげる人が多くなっているのは幸いです。しかしこれがいつまでも続くことがない様に思います。今日のような取り組みのなかで意識が高まっていくことを願っています。

最初このイベントと人権のつながりが分かりませんでした。ジャンルは違えど一つになれる音楽は国境を越えるし、音で通じ合えたり心が一つになることを思いださせていただきました。ありがとうございました。

全くジャンルの違う3人の方のセッションとてもよかったです。両親が太鼓をしていたので今日は母を誘ってきました。「上から目線で人を見ない」大切にしたい言葉です。気を付けるのではなく、自然にそのようにできるように!!

第4回町民人権講座

「私」からはじめる

三木 幸美 さん

「私たち」の多様性社会



三木さんは、日本人の父親とフィリピン人の母親の間に生まれ、両親が婚姻届を提出する小学校2年生まで、無国籍であったとのこと。母親は差別を恐れ、自分が外国出身であることを隠すように暮らしていたそうです。三木さん自身も小さな頃から差別的な言葉をかけられるなどの悲しい経験をしてきたとのことですが、そうした辛い過去を背負っているとは思えないほど、堂々とご自身の体験を語っておられました。



差別に打ち勝つために、自分の思いをしっかりと伝え、一緒に考えてくれる人を増やすことが大切であるということ、力強く語っておられました。

聞いていてこんな苦しい気持ちになったことはあったらどうか。胸が痛かった。日本人の外国人に対する差別…。それは自覚無しで悪気無しでひょっこり顔を出す。多様性の時代と呼ばれ、どんどん改善してきたとイメージしていたが甘い考えだった。(部落差別も同じだ)こんなに厳しい環境の中で、日本と外国にルーツをもつアスリートたちが何人も活躍していたのは奇跡に近いと思った。

外国人の人達が、身近に感じられる様になりました。考えられてる方向性はすばらしい。福井の地元にもこんな活動がしっかりと根付くようにバックアップしたいです。

「自分の話をする」「人の話を聞く」との話がされていたが、私は最近少し「人の話を聞く事」ができるようになった。自分の考えを持つことができるようになってきた。しかし自分が差別に出会った時にどんな態度をとるか、自分の声ははっきりとしていない。今日の講演をしっかりと振り返り、差別について考えていきたい。

やはり痛みを知り、苦しい経験をし、考えて来られた当事者の考えやお話を聞けることが一番の勉強になります。自分自身のこれまでの人生を振り返ってどれくらい生きてきたか、はずかしくもなるが、こうやって学びながら、よりよく生きていける自分づくり、社会づくりをしていきたい。



第5回町民人権講座

ニャーゴのやさしさ ティラノの思いやり



宮西さんは、「はーい」や「はらぺこへびくん」、「まねしんぼう」等の絵本の読み聞かせをされながら、親御さんの子どもへの接し方、子どもは褒めて成長させていくことが大事であること、また、絵本の読み手となる大人自身が子どもに絵本を読みながら絵本の楽しさを味わって欲しいと話されていました。

宮西 達也 さん

宮西さんのサプライズで、講演を聴きにいられていたお客さんやスタッフがステージに上がり、読み手として参加する場面もありました。宮西さんの軽妙なトークも交えつつ、突然読み聞かせをすることになったお客さんたちが一生懸命読み聞かせをする姿に、会場からは労いの拍手が送られていました。

講演の最後には『その時その時を一生懸命生きることの大切さ』や『人生においては必ず周りに手を差し伸べてくれる人がいる、そういう人を大切にすることで夢は叶う』と来場者に訴えかけられていました。

私自身、今回の講演を聴かせていただくまでは、絵本というものは遠い存在でしたが、すごく身近で楽しいものだと思わせていただきました。



楽しい講演でした。絵本大好き、子どもたちにたくさん読んであげたい。子どもだけでなく大人にも読んであげたいし、大人も読んでほしい。きっとやさしい人になるでしょう。

「テーマやストーリーを変えなければ、言葉が一字一句原作に忠実でなくてもかまわない」というやさしさと教育観にあたたかさを感じます。一生懸命やることを再確認しました。ありがとうございました。読み聞かせの経験はあまりないですが、大変ヒントを得ました。

子どもは大人を見ている。大人が一生懸命生きないといけないという言葉が心に残りました。心豊かに生きていきたいと思いました。

楽しい中に一生懸命過ごすこと、感動をたくさんして感性豊かになることが大事だとあらためて感じました。読み聞かせもあり、たくさん笑った講演会でした。

人権協部会紹介 その2

啓発資料・人権協コーナー部会

★人権協コーナーの巻

前号の部会紹介では、啓発資料を中心に紹介させていただきました。

今号では人権協コーナー設置への取り組みを紹介します。

これまで、約20年に渡り開設してきた「人権共同作品」をみなさんご存じでしょうか？

中央公民館での町民文化祭人権協コーナーの展示から始まり、形を変えながら、現在は生涯学習センターなびあすで年間を通じて、皆さんと共に作り上げています。

今回は、その20年間、ほぼすべての作品の元になるアイデアを出し続け、人権共同作品作りになくてはならない存在の、森井みどりさんにお話をお聞きしました。

＊

——森井さんが人権協の活動に参加されたきっかけを教えてください。

知り合いだった現副会長竹本さんに誘われて参加しました。何か上手なことを言われて入ったのかなあ(笑)。いろんな人と出会い、いろんな考えに触れて、自分には得になったと思っています。

——共同作品作りは、どのように始まったのですか。

部会の皆さんと人権協コーナーの持ち方について検討する中で、こちらから情報を一方的に提供するという形ではなく、参加者のみなさんが共同で人権に関する作品を作り上げる形がよいという話になりました。そして内容を考えるときに、

私は、人々となつがっていることのすばらしさ、ふるさと美浜のすばらしさを感じてもらえるような内容にしたいと思いました。共同作品に参加しながら、身の回りを振り返ったり、いろいろな人の想いや考えに触れたりする中で、今まで感じなかったことを感じ、新たな発見ができる気がします。

——共同作品作りのアイデアはどのように生まれるのでしょうか。

基本的には身近にあるものを、身の回りにあるものを使って何か作れないかなあと考えています。ものにあふれているので、もったいない!それに手を加えてみんなが楽しみながら作ってもらえる何かを考えます。

そして、身近にいる人、もの、美浜の自然など、今まで気づけなかったすばらしさに気づくことにつながっていけるような作品を考えています。

出来るだけ手軽に、どんな方でも参加してくれるようなものを作り、体験を通してあらゆる人と心の交流ができればと思いながら考えると、いろいろな形が浮かんでいきます。みんなの笑顔に会えるのが楽しみでした。

——これまでたくさんの作品がたくさんの人びとの参加で作られましたが、特に印象に残っている作品は何でしょうか。

小さな千羽鶴で大きなハートを形どったもの(平成11年度『折り鶴ハート』)と、ハートを形どった紙で木を実らせていった作



品(平成23年度『ハートの実のなる木』)です。この2つは特に子供たちがたくさん来てくれて、楽しみながら参加してくれていたのととてもうれしかったことを覚えています。

——今年の共同作品「RE-BORN リボン美浜」について教えてください。

今年度人権協では「シトラスリボンプロジェクト」に賛同し、その思いが広がるようにとたくさんのシトラスリボンを作成し、みなさんにお配りしました。そのシトラスリボンを題材に何かできないかなと考えました。シトラスリボンを作るのは少し難しいので、小さい子供たちにも作ってもらえるように、大きなシトラスリボンに、簡単につなげることでできるリボンを繋げていくオブジェを考えました。子どもたちに楽しくつなげてもらえると嬉しいですし、結ぶときに「人のことを想う、人とつながる」そんなことを考えてくれると嬉しいです。

2021人権共同作品は令和4年11月までなびあすに展示中です。

皆さんもぜひ参加してください!

心は炎を絶やさずに生きていこうと思えます。



人権コラム

「心の炎」

「執筆」田中 優太郎



皆さんは「煉獄杏寿郎」という人をご存じでしょうか。もしかしら一度は耳にしたことがあるかもしれません。彼は今話題のアニメである「鬼滅の刃」に登場するキャラクターで、「煉獄さん」の愛称で親しまれています。彼は物語中において登場回数はそれほど多くないのですが、ワンシーンごとの言動が僕の心に刺さります。今回はその中から印象に残っているものをいくつか紹介しようと思います。

一つ目は、「俺は俺の責務を全うする。ここにいる者は誰も死なせない」です。これは煉獄さんの前に強大な敵が現れ、窮地に立たされた際に敵に放った、煉獄さんの生き様を象徴するような台詞です。ここでいう「責務」とは私腹を肥やすことに自分の力を使わず、それは弱き者を守り抜くためにあるという考えに基づいたものです。実際、煉獄さんはこの戦いで二百人近くの一般人を一人で守り切りました。

二つ目は、「竈門少年 俺は君の妹を信じる 鬼殺隊の一員として認める」です。物語の主人公である竈門炭治郎は鬼となった妹を連れて鬼狩りの任務にあたっていますが、煉獄さんは彼女を受け入れようとはしませんでした。しかし、戦いの中で一般人を守る彼女の姿に考えを改め、この台詞を炭治郎へ語りかけました。炭治郎は妹が鬼となり辛かったはずですが、この言葉に救われたと思います。

三つ目は、「己の弱さや不甲斐なきにどれだけ打ちのめされよう、心を燃やせ」です。これは煉獄さんが敵に敗れ、それに対して炭治郎が無力さに落ち込んでいたときに言った台詞です。私はこの「心を燃やせ」という言葉を聞いたとき、非常に心を打たれました。言葉自体はシンプルであるにもかかわらず、勇気をたくさん与えられます。自分が苦しいときに「心を燃やせ」と、心の中で唱えてみると再び心に火が灯されるような感覚になります。このように今まで大変なあまり心が折れそうになることが何回ありましたが、この言葉とともに何とか乗り越えてきました。

煉獄さんは最終的に命を落としましたが、仲間を想いながら旅立っていきます。こういった強く優しい人柄を僕は尊敬しています。煉獄さんのような人になりたいと考えたら、僕はまだまだ人間として未熟なので道るのは険しいですが、彼が見せた生き様は決して忘れることなく、心の炎を絶やさずに生きていこうと思えます。

# こえ 声 こえ

「ふれあい」第75号をお読みになった読者の方より、多数のおたよりが寄せられました。ありがとうございます。紙面の都合上、その中のいくつかを紹介いたします。これからもみなさんの「声」をお届けいただけると幸いです。

- ◆人権コラムで「言葉は人を変える、人生を変える」の記事を読んで、ちょっとした言葉や行動が人生を変えるきっかけになるんだと思ひ、これからの言葉には少しでも相手を思いやり、行動したいと思ひます。(N.Sさん)
- ◆とてもいいと思ひます。有名人や美浜の方などのお話とても心に響きます。人権協だよりがなければ知らなかった世界もあったかと思ひます。興味からでも知れる機会があるっていいと思ひます。これからも頑張って活動して行ってほしいです。(Y.Aさん)
- ◆楽しく読ませていただきました。クロスワードはいつもより難しく感じましたが、それもまたおもしろかったです。これらもずっと続けていただきたいです。ただいま、おかえりを忘れずに生活したいと思ひます。(I.Yさん)
- ◆宇梶さんの親がアイヌで差別にあったことを聞き、以前美浜町図書館で借りた葉真中舘の『凍てつく太陽』という本もアイヌ出身の人の話でした。戦時中だったのでひどい差別があったという事を改めて思い起こしています。根強いものですが少しずつ学習しながら、大人の私たちから改めていかなければいけないことだと強く思ひました。(F.Hさん)

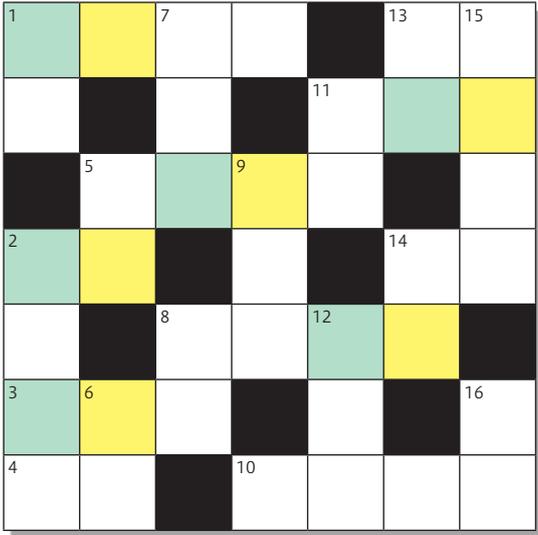
## ■ 応募方法 ■ (郵送、FAX、E-mailいずれかをお願いします)

● 答え・住所・氏名を巻末の用紙に書いて下記までお送り下さい。  
〒919-1141 美浜町郷市29-3 人権協事務局 (生涯学習センターなびあす内)  
※ FAX(0770-32-1222)  
E-mail(jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp)



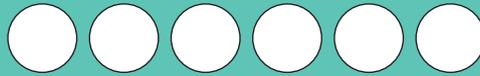
- 〆切は、令和4年6月5日(日)です。(当日消印有効)
- 正解者の中から抽選で、図書カードをお送りします。
- 前号の人権クロスワードの正解は「おかえり、ただいま」でした。たくさんのご応募、ありがとうございます。正解者は14名でした。

今回の当選者は 沢田 ツルエさん 高橋 智子さん  
稲葉 有衣子さん 加藤 義一さん 深川 初恵さん  
以上の皆さんです。おめでとうございます!



## 人権クロスワードパズル

黄色のわく、緑色のわく、どちらの中のできる言葉が答えです。



### ヨコのカギ

- ヨコ
1. 後楽園、倉敷、きび団子から連想される県。
  2. 人の名前に付ける敬称の一つ。
  3. 満月から新月になる間の月のこと。⇔上弦
  4. 酢飯に魚や貝を乗せてにぎった料理。
  5. 手ごたえがなく、張り合いがないことを意味することわざ「のれんに○○○○」
  8. 実際よりも大きく見せかけるさまのこと。
  10. ヴェルサイユ宮殿やルーブル美術館、エッフェル塔で有名な国は?
  11. 長い柄の先に爪のようなものを取り付けた、落ち葉などをかき集める道具。
  13. オナガザル科のサル的一种。マント○○など。
  14. 果実はドングリであるブナ科の木。

### タテのカギ

1. 兄弟姉妹の息子のこと。
2. 動物と人間の曲芸を中心とした見世物のこと。
5. 人生における幸・不幸は予測ができないこと「塞翁が○○」
6. 昼が最も長くなる日。
7. 「天狗の羽団扇」の別名を持つ、大きくて裂けた葉を持つ植物。
8. 人から受けた、ありがたい行為のこと。
9. お味噌汁の別名「御御御付け(○○○つけ)」
11. 髪の毛をとかす道具。
12. 元は奇襲などで敵を混乱させる戦法のこと。最近では突然の大暴風などで「○○○豪雨」のように使われています。
13. 自由に使える時間のこと。
14. 雨や雪などを防ぐためにさすもの。
15. 太閤検地や刀狩を行った戦国武将「豊臣○○○○」
16. 餅をつくときに使用する道具。

## 編集後記

◆年間3号発行しているこの「広報ふれあい」。人権協25周年を迎えた令和3年度も最終号となりました。一年前、来年の今頃は「コロナトンネル」の出口が見えて、編集後記にも次年度への意気込みが書けるだろうと思ひましたが、オミクロン株による第6波の影響でまたも窮屈な生活を余儀なくされています。止まない雨はない、出口のないトンネルはない、と言ひ聞かせてはいるのですが、なんともどんよりとした気分です。◆表紙にある会報名「ふれあい」の上にはその思いがこう書かれています。「心のふれあいによって相手を理解し、思いやりの心が生まれ、新しい美浜をつくっていく」と。20年以上前に人権協の先人が書かれたのでしょう。25年たった今でも大切にしたい思いは同じなのだなあと深く考えさせられます。◆考えようによっては、未だに達成されてい

ないのではないかと、ともとれますが決してそうではありません。人となりがつながっていく以上いろいろな衝突が生まれます。自動車同士の衝突であれば修理すれば直りますが、人となりの衝突はそうはいきません。衝突が起こる前にどう回避するのか、仮に衝突したとして次どうすれば衝突が避けられるのか、そこを考えていくのが表題「ふれあい」の思いなのだと思います。おかしな例え話になったかもしれませんが、「心のふれあい」をこれからも大切にしたいと思ひます。◆では、「明日天気になあれ」と願ひながら、今年度終わりの編集後記とさせていただきます。いつもお読みいただきありがとうございます。次年度も一人でも多くの方に手に取っていただけますように…。

【広報部会員一同】